

平成29年度減災対策推進特別委員会中間報告書 構成(案)

1 付議事件

減災及び防災対策の推進に関すること

2 今年度の調査・研究テーマ

地域防災力の強化・向上

3 テーマ選定の理由

災害による被害を最小限にとどめていくために、行政によるハード面・ソフト面双方の公助の取り組みが重要なことは言うまでもないが、市民自身が主体的に取り組む地域での自助・共助の取り組みも、ますます重要になってきている。

一方で、頼りにすべき地域では、高齢化などによる自治会町内会の担い手不足が深刻化しており、特に若年層を中心に対策は行政に任せておけばよいという風潮や公助への過信が強く、自助・共助の意識啓発が十分に浸透しているとは言い難い状況である。また、地域の防災の主力を担う消防団について、目標に対する充足率は順調に伸びているが、さらなる裾野の広がり、団員の技術向上といった課題がある。

そこで、自助・共助の意識啓発、消防団の強化等を軸に、地域防災力の強化・向上 について調査・研究を行うこととした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 平成29年6月9日 委員会開催(第1回)

ア 議題

平成29年度の委員会運営方法について

今年度の委員会運営方法について意見交換を行った後、調査・研究テーマについては「地域防災力の強化・向上」と決定した。

イ 委員意見概要(別紙1参照)

(2) 平成29年7月12日 委員会開催(第2回)

ア 議題

調査・研究テーマ「地域防災力の強化・向上」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関連する本市施策等について、次のとおり当局から説明を聴取し、その後意見交換を行った。

【説明局】総務局、消防局

(ア)「自助・共助の取り組みへの支援」について(当局説明の概要を記載)

(イ)「消防団の充実強化に向けた取り組み」について(当局説明の概要を記載)

ウ 委員意見概要(別紙1参照)

(3) 平成29年9月27日 市内視察実施

市内視察の概要を記載

(4) 平成29年9月27日 委員会開催 (第3回)

ア 議題

調査・研究テーマ「地域防災力の強化・向上」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関連する本市施策等について、次のとおり当局から説明を聴取した。
また、当局で作成した「地域防災力の強化・向上にかかわる区の独自事業」の一覧表について、委員長から説明があり、それぞれ意見交換を行った。

【説明局】総務局、消防局

(ア)「横浜市民防災センターの取り組み」について (当局説明の概要を記載)

(イ)「横浜市民防災センターを活用した自助・共助の支援」について

(当局説明の概要を記載)

(ウ)「地域防災力の強化・向上にかかわる区の独自事業」の一覧表について

(委員長説明の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙1参照)

(5) 平成29年11月28日 委員会開催 (第4回)

ア 議題

参考人の招致について

イ 委員会開催概要

本委員会の付議事件に関連して、次回委員会において参考人からの意見聴取を行うことを決定した。

参考人：京都大学防災研究所 巨大災害研究センター教授 矢守克也氏

案件名：地域防災力の強化・向上について

(6) 平成29年11月29日 委員会開催 (第5回)

ア 議題

地域防災力の強化・向上について

イ 参考人講演概要 (参考人講演の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙1参照)

(7) 平成30年2月8日 委員会開催 (第6回)

ア 議題

調査・研究テーマ「地域防災力の強化・向上」について

イ 委員意見概要 (当日の概要を記載)

(8) 次回委員会 (第7回)

当日の概要を記載

5 地域防災力の強化・向上についてのまとめ

委員意見等から導き出される本委員会のまとめを記載

＜委員意見概要＞

第1回委員会（平成29年6月9日開催）

【議題】

1 平成29年度の委員会運営方法について

【主な意見】

- ・地域防災力の強化・向上はいいと思う。自助・共助というと、自治会町内会がなかなか難しいということがあり、しっかりそこに光を当てて物事をこの1年間進めていただきたい。横浜市内各区でそれぞれ取り組んでいる事業等に、先進的な取り組みが幾つかあることは承知している。例えば、高齢化と単身化に伴ってひとり暮らしのお年寄りが多くなり、地域防災拠点まで発災時になかなか行けないという実情がある。このような状況に対応し、栄区では地域防災拠点に行けない場合、自治会町内会が自助・共助で避難所を設定して、区の計画の中にしっかりと入り込んでいる。また、保土ケ谷区でも普段使っている集会所や町内会館、神社やコミュニティハウスを避難所として認め、そこに発災時に集まることを区が了解して、情報の共有や物資の搬入を含めて、区が自治会町内会の自助・共助を助けているという事例がある。地域防災力の強化という観点と自治会町内会の現状を踏まえた非常に先進的な事例だと思う。本委員会でもこのようなところに光を当てていただき調査・研究して、全市的な取り組みへ進められればありがたい。おのずと市内、市外のさまざまな事業、今回のテーマに即した対応、対策にも光を当てていただきたい。
- ・地域での防災拠点校の訓練に参加すると、毎回同じ顔ぶれをお見受けする。自助・共助の言葉やその意味は、まだまだ決して十分に御理解いただけていないと思う。また、防災ライセンスリーダーの資格を持っている地元の方が、東日本大震災から時間がたつにつれ、だんだんと地元の開催の回数そのものも少なくなっており、ライセンスリーダーを取ろうという気持ちの人を発掘することが難しくなっているという御心配の声をいただいた。泉区ではライセンスリーダーの連絡協議会のようなものも結成していくと聞いているけれども、新しい人をどんどんふやしていかなければいけないことと同時に、一度取ったら終わりではなく、レベルアップ、能力向上していく訓練も必要と思う。今回のテーマで、各区におけるライセンスリーダーの状況を勉強していきたい。
- ・非常に重要で、いいテーマだと思う。緑区の白山では、豪雨で崖崩れした際に、地域の町内会館を町内会長と区役所と連携しながら開設した。開設後の運営等、事前にシミュレーションを行っておくことは非常に大事だと感じた。また、震度5以上の地震があったら高齢者や障害者等の登録者に声がけ、見回りをする支え合いカードも展開している。地域の中では相当不安を抱えているケースがあると思っており、今シミュレーションしている。地域防災力の強化・向上ということで、いろいろな面から議論して、いいものが出ればと思う。
- ・栄区では、地域ケアプラザや特別養護老人ホーム等を特別避難場所と設定しているが、拠点に分配される物資が行くルールにはなっておらず、そこでの備蓄等のルールもまだ決まっていない。今後、ルールを検討していく土壌として、WHOの認証であるセーフコミュニティを栄区は独自に取っている。これはデータに基づいて事件・事故・けが等を事前に防ぐために分科会ごとに検討しているが、それに従って毎年分析していくと、高齢化が一番高いところは約46%と出ており、そこでシミュレーションをして、どうしようかということを検討した結果、高齢者の避難場所は町内会館でないと無理だということがわかり、このような仕組みでやって

いる。セーフコミュニティを取って、次の再認証、再々認証が来年になるので、それに向かって町内会一丸となって取り組むとなっている。セーフコミュニティを表看板に動いてもらうという区民の機運の醸成が整ってきて今があると思うが、もっと私も宣伝しなくてはならないと思う。地域防災力の強化・向上を話し合った後のレガシーが残る区の機関はどこになっていくのかということもあわせて、話し合いを進めていただきたい。

- ・ 自助・共助の意識啓発に課題があり、私たちもしっかり関心を持っていくべきと思っている。大地震の発生確率が他都市に比べて高いと言われている中で、市民一人一人が地震とのつき合い方をちゃんと身につけていくことが大前提になっていると思う。ふだんの暮らしの中でしっかりと備えをすることや意識が大事で、意識の啓発に市が責任を持つという関係が大事だと思う。自助・共助の重要性の意識啓発を十分に市民が身につけるためにも、私たちがどうしていったらいいのか、しっかり研究していきたい。各年代それぞれどういう意識になっているか、本当にそれだけなのかといったところも調査していければいい。大変関心の高いテーマなので、委員会でしっかりと深めていければと思う。
- ・ 広域的な災害が起これば、いろいろなところでふだんの生活ができなくなる。例えば水であったり、消防、救急、下水、エネルギーの問題等あるが、なった場合における横浜市の各局のそういうものを強化する。そこで多くなった仕事量を、通常時だったら横浜市が対応できるけれども、非常時なので対応できなくなる。これに対して市民に、役所はここまでしか手が回せませんという取り決めとかシステムを構築していく。その部分では今回のテーマは、例えば横浜市がそうなった場合、どうやって動くのか、どう助け合うのかを個々に研究していくには、ものすごく興味を持っている。
- ・ 日本の場合は地震、台風、豪雨というのは日常茶飯事ということで、全ての住民がそういう意識で日ごろから生活するというぐらいに徹底していかないといけない視点だと思うが、実際にはその点は非常に手薄になっている。そういう点で今回のテーマ設定、市民の一番足元のところをどうしようかと設定してもらったのは非常にありがたいので、防災意識の啓発という一番光を当てなければいけない視点を、しっかり議論できればありがたいと思う。
- ・ 防災士の資格を取得し、議員になってから町内会単一での防災講演等を行ったときに感じるものが、高齢化による担い手不足もそうだが、同じことをきちっと毎年やっていくことが大事という観点もある。いつもお願いしているのは、横浜市の防災啓発ライブラリーがホームページ上にあり、いつもテーマ別で選択でき、流せるようになっている。そのデータをダウンロードして流すという具体的な充実がもっと図られていけば、防災訓練のときに来られない年代層も、きちっとICTを活用して、防災教育のことを家族でできると確立されていくような情報収集をこの委員会でできるとよい。また、テーマの中では消防団の拡充等、これから必要になってくるローリングストックというのはどういうことなのか、最新事例を共有しながら市として、また委員会として最後形になるとありがたいと個人的に思っている。防災訓練のときに意識啓発することも大事だが、日ごろからも大事ということとバランスよくやるということで、港南区では地域で防災トランプに書かれている内容を共有しながら、楽しみながら長寿会の方や高齢者の方が日ごろ集ったときのアイテムとして使っている、そういった情報がひとつ集まるとよい。
- ・ 本当に必要なテーマであり、こういう方向でやっていければと思う。啓発にしても、実際にはパンフレットの数が足りないのではないのか。それぞれの拠点、消防団も、市が考えているものと現実にそごがないか、絵に描いた餅になっていないかというところを、まずしっかりとそうならないよう、あるものはちゃんと生かせるように、さらに足りないところは何か特別委員会

なりの視点で公助を提案していくということになると思うので、現場を見たり、具体的なものを見るなり、例として挙げて、18区全体の地域防災力のさらなる底上げができればいい。

- ・災害がいろいろ多岐にわたっている。地震だけでなく、水害、台風、あらゆることが想定される世の中になってきたということで、防災力の必要性はますます重要だと思っている。地域を見てみると、深刻な高齢化や若い人においては横のつながりが希薄になっているという課題もあり、地域の防災力を高めるといって本来非常に難しいことを今私たちは取り組まなければいけないとすごく感じている。今後こういった課題があるのか、先ほど支え合いカードの話などもあったが、プライバシーの問題と、実際にどう要援護者に対してアプローチしていくのかは、なかなか訓練ができないという部分もあって課題だと思う。そういった課題を一つ一つ洗い出していくのも大切だと思う。この1年でしっかり勉強したい。
- ・このテーマは非常に重要だと思う。戸塚区には地域防災力の強化・向上を目的としたネットワークづくりをしている任意団体がある。私もその会員であるが、その定例会へこの間参加したときに、ネットワークがなかなか広がりにくいこと、ネットワークの中心になっている方々が災害時に現場に行き、いろいろ学んだことがなく、実際に災害になったときに自分たちは何をしたらいいかわからないなどの課題が上がっていた。また、そういった任意の団体は横浜市から補助金も受けているが、補助金の使い方の仕組みにいろいろ決まりがあり、使いにくい。また使わなければ次年度補助金がもらえないので、なかなか活動がしにくいと話されていたので、そういったことも今回議論できたらと思う。
- ・このテーマで全く異論ない。1個だけ問題提起で、皆さんにも考えてもらいたいと思ったのが、昨今の状況を受けて、防災というのは何も自然災害だけでなく、いろいろな災害があると思うが、ミサイル対策やテロ対策について、大都市が標的にされている中で、議事録をざっと見させてもらった限り、これまで何も議論されていなかったもので、それもまさに防災で、防災というのは基本的に発生を防げないから二次災害をどのように防いでいくかという話だと思う。横浜市でミサイルが飛んできたときにどうやって対策したらいいか、私も含めて多分誰も知らないと思うので、これも一番喫緊の防災課題だと思う。東日本大震災、熊本地震もあったので、横浜は地震に対して意識は高いと思うが、地域防災の中でミサイルやテロ対策に特化している町内会は果してあるのかと思い、さまざま選挙区を抱えている先生方がいらっしゃるのでもしそういう事例等あれば教えてもらいたい。そういったことも踏まえた1年間の議論ができればありがたい。
- ・旭区は19連合町内会あり、それぞれの連合地域、また単一の町内会などでも防災訓練が行われている。私も参加しているが、30年間ずっと同じようなことをやってきている。誰かが何か進歩のあるようなことを、行政当局がもう少し指導すればいいのかなと思っている。人の集まりもよくないし、参加することに非常に意義があると思って見ているが、参加して何かためになることを検討し直したほうがいいのではないか。広い横浜の中で素晴らしいアイデアを出していることがあれば伺いたいと思うし、日本全国でも、世界の同じような境遇の中で防災訓練をやっていて、これは素晴らしいというアイデアがあるのであれば、多少進歩していかないと、バケツリレーをやったり、水の入った消火器などで順番にやっていることがいいのかどうか非常に疑問である。少しでもあり方を勉強できればと思う。
- ・これまでの安全安心都市特別委員会、平成22年には地域の安全安心というテーマで、このときは東日本大震災の前だったと思うが、平成23年、それで今に至っていると思う。西区では寺院と区が協定して、寺院に備蓄をしていくとか、今まで12カ所だった拠点がそのことによって倍増している。各区のいろいろな取り組みも含めて、委員会で取り上げていただけたらあり

がたい。

第2回委員会（平成29年7月12日開催）

【議題】

1 調査・研究テーマ「地域防災力の強化・向上」について

【主な意見】

- ・横浜防災ライセンス事業について、本来でしたらみんな使いこなせればいいが、現実を見ると発災時に資機材をしっかりと使いこなせるリーダーを育成していくことが必要だと思う。一定の目標数を達成したということだが、ある時点では目標数を目指してやっていくことは重要だが、そこで固定するのではなくて、機材も更新されることがあるだろうし、訓練を受けたリーダーも時間がたてば、その訓練を継続しなければ鈍ることもあるかもしれないし、新規の方にかわっていく必要もある。私も地域防災拠点を回っている中で、リーダーの方々と意見交換をすることがあるが、回数が減っている。一定目標をある時点で達成して、今度は足りていないところを強化していくという当局見解は、リーダーの方々からすると、視点や実感、思いが違うようだ。御意見を聞いている方々に合わせた形でやるほうが、発災時に効果を発揮すると思うので、ぜひ受けとめていただきたい。
- ・市民の自助・共助の意義、意識、特に自助・共助等の認知度のパーセンテージはこんなに低いのかと思った。我々も防災訓練等いろいろな形で毎回お邪魔するが、出てきている人は大体熱心で頑張っている方、ほぼ同じような顔ぶれである。我々が進めていただきたい自助・共助というところに、この程度のパーセンテージでは、今までの自助・共助の普及活動をもう一度見直さないと、なかなか進まないのではないと思う。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校も含めて自助・共助について、幼いときからしっかり教えて、身につけさせるということが大事だと思う。
- ・市民防災センターについて、横浜市財産であるものを大きく変えたのだから、どこの学校、自治会町内会に来てもらっているのかきちっと数値を現状把握して、今後どうしていくか詰めていく必要がある。しっかりと把握した上で、教育委員会とも連携しながら、進めていただきたい。
- ・瀬谷区は段ボールベッドが入って、各防災拠点の訓練に年2回、回り持ちで、生活資機材という流れで、小学生、中学生に組み立てをしてもらっている。昨年、横浜市は東日本段ボール工業組合と協定を結んでいる。私の認識では市民防災センターに十幾つあり、各区からの要請で貸し出しているが、瀬谷区以外へは貸し出しがされていないという現状を聞いている。各拠点で触ったり組み立てたりしないと全く意味がないし、また、せっかく置いてあるのだから、市民防災センターでの体験研修にも段ボールベッドの組み立てを入れていただきたい。段ボールベッドは、発災時に初めてお金がかかる話で、それまで備蓄もしなくていいし、お金もかからない。そのかわり発災後に必要数を発注して、3日から4日で、各拠点に配られる。ほこりも吸わないし、ベッドだから高齢者の人が、避難所での足腰の二次被害を防げるわけで、啓発をもっとしっかりしていただかないとまずい。センターの活用とライセンス事業の資機材の取り扱いという観点から、しっかりと進めていただきたい。
- ・町の防災組織活動補助金について、いい事例があればしっかり共有化して、評価していくことも必要だと思う。
- ・消火箱について、訓練の項目に入っていないところが多いから、開けようと思っても開かない等の事例が散見するので、ぜひ地域訓練記録台帳にしっかりと記入していただいて、本市とし

でもチェックすることを進めていただきたい。

- 各地域の拠点で防災訓練が毎年行われているが、その機会にもっと防災よこはまのチェックシートを活用することで、より積極的に今後の活動のあり方を支援してもらえるとことをアピールしていただき、それぞれの地域の持っている特性などから適した訓練が行っていただけるように、また地域の力がつくようお願いしたい。
- 地域訓練記録台帳について、この取り組みは積み重ねていくことが非常に貴重だと思う。先日、境川のすぐそばの自治会の方から、大雨の対策についていろいろな心配事を伺ったが、自治会としての訓練はやっていないとおっしゃっていた。そういうところも消防署で把握していただき、適切な訓練の支援をしていただければ大変ありがたい。それぞれの地域に合った訓練がより一層充実していくように、活用していただきたい。
- 今横浜市が自助・共助で市民に対して啓発を行っている情報が、適宜メンテされたり改善されたりしていく流れを怠りなくやっていくことが大事だと思う。冊子という形で啓発することも当然必要であるが、さらにわかりやすい情報の出し方を、しっかり知恵を絞ってやっていかなければいけないと感じている。防災訓練に来る人が限られているということが長年続いている。防災訓練で使える市が提供できるライブラリー、風水害編、地震編、雷編等章立ててまとめている一つ一つがDVDで自由に落とせて、それを見てもらい、少しでも啓発していただけるようにしっかり行い、市民力を使っていく横浜のメリットを生かしてほしい。映像化されるときに、本当に伝えようと思ったら、たくさん現場に入っていて来られる層に適した形でつくりたいと思ってしまう。若い層はICT、インターネット環境が進んでいるので、拡散して啓発してもらい、アクセス数をカウントしたり、より効果的な対策をしていただくよう、さらに注視していただきたい。
- 二次的避難場所について、先進的に行っている区の状況をもう一度見ていただいて、課題を抽出しながら、全市的な展開ができるところからしてもらえないか、危機管理室としても応援してもらえないかを感じている。
- 地域で自主的に防災組織をつくり、実践していくことは大変重要である。区と危機管理室が連携し、しっかり支援していくと説明されており、その点が本当に重要と思っているため、今まで以上に安心感を得た。区がそれぞれきめ細かな対応をしていくところを、危機管理室としても連携を取り合って把握し、何が必要なか判断して、新しい道具や、やりやすいものを提供していただく必要があると思う。私たちとしても、地元と話し合いもしながら、自主的に立ち上がるためにはどうしたらいいのか、行政としてもしっかりと責任を持った支援をしていただくことがとても大事だと思う。
- 地域防災力の強化という部分では、自助・共助の意識啓発をしっかりと行っていないといけないうところが肝だと思うが、アンケート結果を見ると訓練に何も参加してないが50%、言葉すら知らないという状況で、半分の方が知らない、無関心、無参加という状況があるわけである。大事なことは、数字をしっかりと浸透させていくために、ターゲットを絞ったやり方、地域での担い手の研修に力を入れていきながら、その方々に頑張ってもらい、さらに地域で啓発していただくという方向性は1つだと思う。それだけではなく、理由が明確であったらほかにもいろいろとやり方はあると思うので、しっかりと結果を分析しながら、意識が高まっていくような取り組みを積極的に進めていただきたい。
- 感震ブレーカーについて、1年間で5000個の設置目標、毎年順調に行っても目標とする戸数に全て設置し終わるまでに、50年かかるという計算になっていたと思う。例えば一気に市費を投入して、必要などころに感震ブレーカーを配る。そのかわり徹底して、自治会町内会の力を

かりて、必ずつけていただくことが、防災意識の向上・啓発につながっていく相乗効果もあるのではないかと思う。そういった方向から、啓発を進めることもさらに検討を進めていただきたい。

- ・消防団強化の取り組みの中で、私が一番インパクトを受け、素晴らしいと思っているのが学生である。若い方が各分団にいるのは雰囲気もまた違ってくる。学生なのでそこにずっと住んでいるとは限らず学生の間だけかもしれないが、どこに行こうが訓練を受けたことがしっかりと地域で生かされていくという部分では非常に有意義ではないかと思う。より多くの学生に参加していただけるような工夫をさらに進めていただきたい。学生消防団員認証制度について、学生にとってよりインセンティブやメリットの高い魅力的なものにして、学生団員をふやしていただきたい。
- ・瀬谷区で小型ポンプの操法訓練大会に向けて、消防団の皆さん方、大変な思いをして、それぞれ各地域で訓練、練習を行っている。日ごろの訓練の成果を競う場であり、それが消防団の充実強化にもつながっていく。その中で多くの方たちが、各地域で訓練場所がないと。消防団の充実強化ということからすると、小型ポンプの操法訓練は非常にモチベーションも上がるし、実際に皆さん方が手にできるし、やることによって団結も生まれる。使命と責任感も訓練をすることによって生まれてくる。一方で、訓練場所がない。本市の全体の問題として、各局持っている例えば遊水池の問題、農道の問題というところも含めて、局全体として関係部局とも連携し、場所の確保を進めていただきたい。
- ・実際に被災した際には、消防団員はあくまでも防火の消防職員の補佐をするので拠点には来れないと思われる。一方、地域防災の担い手の育成と消防団員の人数をふやしていく、充足させることは違うということが住民に伝わっていない。過大な安心感を住民が抱かないで、自分のことは自分でやっていくということ、訓練に参加して、有事の際にこれはあなたがやるのですよということを徹底して、消防団の皆様からも積極的に現実を知っていただく努力は現場でやっていただくべきだと思う。今の状況ではそういう意識啓発は足りていないと思うので、これからどうしたらそうなるか、一緒に知恵を絞っていただきたい。
- ・消防団の充足率が非常に高いということで、素晴らしい。これも皆さんの努力と敬意を表したい。緑区の場合、大きな団地の中に消防団がない。ほかの地域はどうかわからないが、そういうところも本当は消防団をつくらなければいけないのかどうか。居住者数や人口に合わせて必要ではないかと思う。消防団がある地域とない地域があれば、少なくとも誘導する人は確保してくださいと、消防団と言わないのかもしれないが、そういう動きが、もしかしたら自治組織として必要なのではないかという感じがしている。充足率が高い一方、消防団活動がまだまだ地域での理解が薄い。積載車で歩いて声を出すと、うるさいと言われるということもあり、非常にモチベーションが下がるという感じがする。特に年末年始の特別警戒のあたりは、地域にも理解を求めるようなことを横浜市サイドからも発信すべきだと思う。

第3回委員会（平成29年9月27日開催）

【議題】

- 1 調査・研究テーマ「地域防災力の強化・向上」について

【主な意見】

- ・段ボールベッドに関して、見て改めて思ったことが、災害時に非常に有効的なものだということ。一方、申請してから届くまで、道路事情や災害状況等あると思うが、1週間ぐらいという話だったと思う。今、横浜市は地域防災拠点に備蓄品をさまざまストックしていると思うが、

備蓄品を入れている段ボールを活用して段ボールベッドをつくるような啓発というのが、より初動の段階では効果的なのではないかと考えた。備蓄品を入れている段ボールを有効活用すれば、初動で対応できるということを、地域の方がわかっているならば、つくっていけるのではないかと思う。地元の小学校の備蓄庫を見ると、大量に段ボールがあり、ある程度まとまれば、ベッドのかわりになるのだと。エコノミー症候群になりそうな方の予防として、高い、寝る場所を確保することが大事だということを考えれば、段ボールベッドのつくり方みたいな書面をつくり、正規品が届くまでの間、そういう使い方もできるということを、すぐにでも考えたほうがいいのではないかと思う。

- ・市民防災センターのメニューについて、今後の検討課題としていただきたいのは、水位計や、それに伴う注意喚起をする表記がどういう意味を持っていて、身近な河川、水路で、雨が上流から降ったときにこうなるのだということも少し取り入れていただいてもいい。市民防災センターに小学生が行ったときに多少の時間を使って、覚えることができないかなという検討を工夫していただきたい。
- ・段ボールベッドは、災害時の避難所等で二次被害に遭わないための工夫である。発災してから、本市が協定を結んだ、東段工と言われるところに発注して初めて物が運ばれてきて、お金が発生する。今各地域の防災備蓄庫はいろいろなものが入っており、非常に満杯だということから、これ以上、備蓄庫に物を入れ込むのはなかなか自治会・町内会としては厳しいということもある。きょう組み立てたのは一番初期のものだと思うが、だんだん変化もしていくので、そういった情報もきちっと踏まえて、しっかり対応していただきたい。また、発災時は業界の中のメンバーが開通している道路を見つけ、運んでくるというシミュレーションだが、その訓練をやるべきではないかなと思う。
- ・エコノミークラス症候群や下肢静脈の問題、心臓や肺、脳に血栓が飛んで、脳梗塞や心筋梗塞などになるという二次被害を予防するための手段として、くるぶしに一定の弾力性のあるストッキングを履くことによって血栓を予防する弾性ストッキングがある。履くことにより、エコノミークラス症候群や下肢静脈等の問題が軽減されることが認められており、今、医療機関と国が連携し検討していると聞いているので、今後、段ボールベッド以外にもそういった選択肢があることを踏まえて、検討していただきたい。
- ・防災・減災について授業をやる場合に、ベースになるのは、啓発活動がどこまで市民的にやられているかということが非常に重要だと思っている。小学校単位で大いに市民防災センターを利用してほしい、子供のころから教育していく。小学校は基本的に全員行くため、ここで教育が徹底されると、最終的には全市民に啓発活動が行き渡る。時間はかかるが、非常に大事で地道な活動だと思う。教育委員会とよく相談して、小学校・中学校という子供の時期に、ぜひしっかり防災教育できる仕組みをつくり上げてほしい。
- ・防センアカデミーについて、内容は非常に大事な研修になっていると思う。一方、参加者の数が、非常に規模の小さい話になっているので、もっとこれは上手に活用したほうがいいのではないかと思う。防災よこはまという非常にいい冊子ができて、一生懸命、防災の勉強会をもう数十回やっているが、相手にわかってもらうように話をするのはなかなか大変である。防センアカデミーのテキストも、できるだけそういう機会に活用してもらったほうが、正確な情報を市民に伝えることができ、大いに役立つと思う。
- ・横浜市にも高層マンションがあるが、災害時に住めないという状態になると、その人たちが避難してくることになると思う。今まで高層マンションは安全で大丈夫だということだったが、それがもしかすると危なくなる。さまざまなケースを想定して考えながら、流動的に計画を変

えていただくとお願いしたい。

- ・市民防災センターのような箱物の場合、ハード更新にはお金がかかってしまうので、ソフト面で工夫し飽きさせないということが大事である。防センアカデミーのこともそうだが、より参加者に満足していただけるようなことを考え、工夫していただきたい。
- ・特別委員会の意義は、常任委員会でそれぞれ消防局や総務局危機管理室で議論されている事業をすごく掘り下げていくような話での議論のほかに、横連携というのがとても大きいと日ごろから思っており、早速次に行ったり来たり、取りかかっていたきたい。栄区で考えると、独自の事業で災害ボランティアネットワークと協働でやっているものは、かなり特徴的な動きがある。また、緑区の防災屋外スピーカーを見てきて、町内会長の話も伺ってきたが、物すごく効果の高い取り組みをされているなというのが感想である。完全に町内会の予算でやっており、住民の総意を取りつけるという努力もされていた効果的な事業だが、残念ながらこの一覧表に載っていない。今後、リサーチを繰り返し、ファイル分け、縦軸・横軸でもう少し仕分けしたような形にしていったらいいと思っている。区域に限らず、いろいろな局から挙がってくるものもあると思うので、この特別委員会的な課題を優先に考えるという視点でまとめていただきたい。
- ・区の独自事業のとりまとめ資料を委員会資料として18区にお配りしてもらいたい。
- ・現場の声や知恵というものをそれぞれ行政区の職員の方に知っていただき、危機に対してどう対処するかという自助・共助からすると、こういう形でまとめていただいたのはありがたい。ここに反映されていないことが、多分まだまだあると思うので、できれば現場の知恵を行政として生かせたらということもあるので、これ以外にもう一段発展させることができれば、お願いしたい。例えば飲料水の確保策として、市内500メートルメッシュである消火栓の水は基本的に飲料水であり、発災時、消火活動が終わった後、圧力を軽減する器具を使って飲料水として使うということも本市はやっている。また、地域防災拠点の学校にある受水槽、高置水槽は、器具を設置することにより飲料水として活用できるということもある。自助・共助という範疇の中で、ここにはないものもうまく精査していただきたい。
- ・区の拠点、地域防災拠点、中間避難所の情報共有をどうするか、物資搬入はあり得るか、ないか。あり得るとすれば、誰がその搬入をするか。区の災害対策に対してどう位置づけるかということは多分、微妙に違う。ここに載っている情報をしっかりと危機管理室に見ていただき、統一できるものは統一して、18区全体に広げられるものだったら、広げられるような情報をしっかりとつかんだ上で精査しなければならない。現場の声を形にしていくことをぜひ今後につなげていただきたい。
- ・障害をお持ちの方や団体の方から聞いているのは、自治会・町内会で避難訓練が行われているが、当事者として参加するやり方が区ごとに違って、実体験できるような場がなかなかない。そこをもっと誰かがリードして、そういう案内や実施結果、その後の啓発など、もっとしてもらえたら安心が高まると、毎年毎年聞いている。港南区では災害児要援護者支援の啓発パンフレットを作成するに当たり、障害者団体等と連携してつくっているという紹介があり、旭区では、区役所と特別避難場所との連携があり、区の高齢・障害支援課としっかり連携したことが行われているという紹介もあり、当事者団体の人たちもしっかりとかかわったこういう動きがあるということ、障害団体の方にも伝えていただき、各区で広がり、参考にできるようなものになれば、とても安心感が高まると思う。これから地域で活動が広がっていく参考に皆さんがされるのに、とてもいい材料を出していただいたと思うので、障害をお持ちの方々が安心して訓練にも参加する、自分たちで備えもする、そういう方向につながるように区の独自事

業のとりまとめ資料が活用されるといい。

- ・区の独自事業のとりまとめ資料を配付していただき、各区の取り組みを共有することで、本市の地域防災力の向上につながっていくことを期待したい。

第4回委員会（平成29年11月28日開催）

【議題】

- 1 参考人の招致について

第5回委員会（平成29年11月29日開催）

【議題】

- 1 地域防災力の強化・向上について

【主な意見】

- ・クロスロードを使った訓練というのを初めて伺ったが、大変いろいろな観点から学ばせていただいた。時間がある限り、地域で行われている防災拠点訓練には参加し、どのような訓練をされているのか見ているが、非常にマニュアルに沿って、時程もびっちり決められて訓練が行われている。それはそれで一つ大切なことであり、地元で拠点運営に当たる方たちは本当に熱心に準備をされ、一生懸命取り組んでくださっているのはよくわかっている。だからこそ、災害時は何が起こるか分からない、どれだけの人たちが拠点にいらっしゃるかも予想できないため、一回その概念を壊して、いろいろな観点からクロスロードのディスカッションを行っていくことが必要なのだということがよくわかった。
- ・非常に新しく新鮮な視点で、特に現場を重視されたから、より理解できた部分もすごく多く感じた。クロスロードを学ぶに当たり、いろいろな防災ゲームを通じて日常の防災意識を高め、新たな気づきを啓発していくこともあると思っており、例えば、今防災トランプというものがある。一方、それを進行していく人のモラルにより、その伝わり方がかなり違うとも思っている。先生がクロスロードをいろいろな各地域でお話しされることで、もともと正解がないということで、その場でみんなで答えを決めていくというこの視点もすごく大事だと思うが、逆に言うと、クロスロードを通じ議論を重ねることで、想定外がなくなっていく面もあるのではないかと感じた。
- ・非常に実践的な話で参考になった。屋内避難訓練の重要性、押しかけ家具固定、なるほどと思いき聞かせていただいた。また、先生が冒頭に紹介された御自分の体験で、お母さんが非常持ち出し用のバッグを枕元に置いておいたのが非常によかったという話があった。我々も日ごろからいろいろな場所で強調するのだが、実際に非常事態のときに、すぐに持ち出せるように準備している方が必ずしも多くない。非常に悩ましい話で、必要性とその効果は非常にわかるのだが、市民の皆さんに、どのようにしてその備えを徹底していくか、地域全体に広めていくかというのが課題であると感じている。
- ・本日の講演大変参考になった。今まで持っていなかった視点も聞くことができた。その一つとして、屋内避難訓練がこんなに重要だということは、本当に驚いたところである。
- ・避難所等が開設された中で、どうしたらうまく自主的にやっていっていただけるかということ。マニュアルがあり、偶然その避難所でリーダー的な人がいて、あるいは自治会長がそういう方に寄り添ってうまくいくことを期待するか、できるだけそれはそういう偶然ではないようにしようとするのが大事ではないか。
- ・クロスロードは、非常におもしろく共感できるとともに、事前にそれを積み重ねていったほう

がいいと感じたところである。私も地域の防災訓練などで、班に分かれて避難所開設のシミュレーション訓練をすることがあるが、その前段でクロスロードをやっておくといいと思い、非常に参考になった。